

現場クラウド

for サイボウズOffice



導入事例集



GenbaSupport
株式会社現場サポート

<http://www.genbasupport.com>

本社: 〒890-0045 鹿児島市武1丁目35-4

TEL. 099-251-9971 FAX. 099-259-3874

福岡オフィス

〒812-0054 福岡市東区馬出1丁目13-9 D-1ビル201号

導入事例

株式会社中野建設

●担当者 船津様 吉森様

初めてでも簡単操作で効率アップ



導入前の課題

今まで利用した事が無かったので、業務効率化されるか不安だった

解決方法

初期導入や運用の変更も丁寧なサポート対応

効果

スピーディーな状況確認・対応につながった

情報共有システムへの期待と不安



社内では国土交通省の工事などで利用しており、情報共有システムのことは知っていましたが、自身ではこれまで利用経験が無かったので実際にどのようなことができるのか、期待と不安の両方がありました。特に初めての運用なので、うまく活用できるか不安でした。

また、これまでCADデータ等の大容量データのやり取りにCD-Rを用いていましたが、今回利用するにあたって、大容量データの受け渡しなどの省力化に期待していました。

利用開始直後は基本操作の点で何をどうしたら不明でしたので、サポートセンターへの問い合わせを行いましたが、丁寧な説明を受けすぐに解決できました。

情報共有システムの活用メリットと今後への期待

活用が始まれば、主に打合せ簿関係での活用が多かったです。データ作成後紙に印刷する手間や書類を持参する手間が減りました。また監督職員の在席を気にせずに送れる点が業務効率化につながったと思います。さらに、どの段階まで回覧承認されているのか確認できるのも便利でした。

ペーパーレス化による経費削減や労力の負担減少は勿論、パソコン内での処理・閲覧が可能になり、紙による煩雑さがなくなったのが良かったです。

また電子データなので、パソコンだけで検査を受検でき、プロジェクトを活用することで検査立ち合い者全員が書類の内容を閲覧できたのも良かったです。週間工程表や立会願いも従来の紙やメールではなく、個人フォルダ機能を活用しましたが、工事に関するデータが情報共有システム内で一元管理できているのが、非常に良かったと思います。

他にも個人フォルダ機能では、大雨などの災害状況などを写真付きで報告する際に活用しました。写真付きなので監督職員がすぐに現場に来られない場合でも、現場の把握ができ、判断材料にもなったと思います。

今後は上述以外にも、スケジュール機能を活用して、立会のための受発注者間のスケジュール調整に活用できればいいと思います。



導入事例

都城志布志道路安全協議会

●担当者 株式会社山本組 牧之瀬様
●発注機関 鹿児島県 大隅地域振興局

安全協議会内のスムーズな情報伝達！



導入前の課題

メールでやり取りをすると全員に伝わるまで多大な時間がかかっていた。

解決方法

掲示板を利用して情報共有の迅速化

効果

施工会社同士の情報の共有が円滑になった！

掲示板を利用して 協議会での連絡事項一斉回覧 !!

この安全協議会では、常時30～40社の施工会社が参加しています。これまでには、参加中の協議会社への連絡はメールでやり取りしていました。メールだと一方的な連絡になってしまい、相手に伝わっているのか分からず、都度電話連絡で確認する等、多大な時間がかかっていました。

掲示板を活用するようになってからは、瞬時に全ての関係会社へ一斉連絡ができるようになり、連絡事項がスムーズに伝えられるようになりました。また、相手の都合を気にすることなく、合間の時間で自分の都合でやり取りできる点もいいですね。また、リアクション機能を利用する事で、情報の確認の有無がわかるようになって、迅速な情報の伝達ができるようになりました。



重要事項の共有で問題の未然防止へ！

現場で何か問題があった際には、すぐにこの掲示板にあげ、全員で共有しています。住民からの声や災害時の対応など、即座に共有したい事項もここに掲載すると一斉に確認でき、迅速な対応が可能になりました。これまで連絡事項も個別に問合せがあり、都度対応してましたが掲示板でやるようになって問合せ内容も共有できています。

他にも過去に共有した様々なやり取りは掲示板機能の中に記録として残っているので、新しく安全協議会に参加した会社や担当者が変更になった場合も、一から説明することなくうまく引継ぎが行えています。もう紙やメールでやり取りしたくないですね。情報共有システムのおかげで業務を効率化できました。

今後は、協議会内での議事録や写真等、ファイル共有にも活用していくたいと思っています。

重要な内容も掲示板で共有するようになってから、再発防止や未然防止にも役立っていると思います。



導入事例

株式会社興洋工務店様

- 担当者様 光浪様
- 発注機関 鳥取県 鳥取県土整備事務所

受発注者が共に安心して運用できるサポート体制！



導入前の課題

自治体発注の試行工事だったので、運用への不安がありました。

解決方法

わからないことはすぐに質問できるサポートセンターの活用。

効果

初めて使う発注者への支援もしてもらい、受発注者共にサポートセンターを活用しスムーズな運用ができた。



疑問点あればすぐに質問。 操作も難しいものがなくて安心。

私たちは国土交通省工事で運用の経験があり、操作手順なども把握していたため運用に対する不安はありませんでした。ただ、自治体が受発注者間情報共有システムの試行工事を始めたばかりであり、担当の発注者の方が紙と電子の混在での対応となることに不安をもつていらっしゃいました。いつもはメールで書類を送付したり、紙に印刷し発注事務所まで持参したりしていたため、紙ではなく電子での決済が出来るかどうかが気になっていました。

しかし、実際に運用をスタートすると、受発注者双方が問題なく活用できました。初めて使う発注者への操作指導はもちろん、サポートセンターを中心としたサポート体制がしっかりしているため、何か疑問点あればすぐに質問できます。操作も難しいものもなく、今では安心して書類の回覧が出来ています。



受発注者間情報共有システムを利用したことによる本来の業務への注力化

今までの業務で時間がかかっていたことの一つに、発議書類を発注事務所まで持参することがあります。大体40分から1時間程度は往復が必要となる上、発注者が在席している時間を考慮して訪問する必要がありました。受発注者間情報共有システムを利用すると、受発注者共有のサーバーに書類を登録するだけでいいので、時間を気にせずに書類の発議が行えるようになりました。施工管理の面でも、以前は移動時間を気にして翌日に回していたものが、当日内で回答いただけることもあり、次の工程に進みやすくなっています。加えて移動に費やしていた時間が、今は別の発議書類の作成や現場の出来形といった本来の業務である現場管理に費やすことも出来ています。また、今ではまだ活用できていませんが大容量データの送付やスケジュールの共有も可能な機能があります。文字だけでなく対面式のコミュニケーションを図っていく上でも、予定を立てやすく事前に情報を共有できるようになるため、今後の運用拡大に期待しています。

導入事例

旭建設株式会社 様

- 担当者様 早瀬様 中野様
- 発注機関 宮崎県 県土整備部



**情報共有システムや
SNS活用で
働き方改革！**

次の現場でも使ってみたい! メリットの実感

初めて利用したのは、『今後、情報共有システムを活用する現場が増えてくるからやってみないか』と社内で声をかけてもらったのがきっかけです。実際に使い始めると、移動時間の短縮や発注者との時間の調整などの面で非常にメリットを感じ、新しい現場でも再度活用したいと思ったので今回も導入しました。

協力会社との情報共有を期待

現在、協力会社の方との仕事の段取りはメールや紙、電話などが中心です。それぞれ連絡手段が煩雑になってしまい、どの施工会社に連絡をしたかが分からなくなってしまいます。

今後の情報共有システムへの期待としては、見積もり等のデータを協力会社の方とファイル共有するような機能があれば、管理がしやすく便利だと思います。

働き方改革について

情報共有システムやi-Constructionの導入に限らず、仕事の進め方改善として、17時半までに業務を終わらせるように会社で方針が示されていて、実行しています。

作業時間を決めてるので、時間までに終わらせないといけないという意識を常にしています。何事もダラダラやるのが嫌なので、早め早めの行動を心がけていますね。

また、業務の効率化を図るために様々な手法や情報収集を目的に、日経コンストラクション等の情報誌を読むようにしています。そこで得た情報は社内で水平展開し、会社全体で業務の効率化を図る取り組みをしています。

現場を空けることが 少なくなって安全管理が充実

現場と役所の距離が片道1時間、打合せの時間を入れれば往復2～3時間かかる現場でした。情報共有システムを活用すれば、遠方の発注者へ訪問する回数も減り、時間の短縮につながるため現場に集中できました。また現場を空けることが少なくなるため、安全管理の面でもメリットになるシステムだと感じました。紙で書類を持っていく場合、提出時間の制限がありました。情報共有システムを活用すれば提出時間を気にせず、完成度の高い書類を作りこんで送ることができるのは良いですね。

また、台風等の災害が発生した際に、写真付きで現場の状況を発注者に報告することがあります。自治体によってメールの添付制限があり、災害時の写真を容量制限で送れないこともあります。情報共有システムでは大容量のデータを送ることができるため、その場で災害状況の共有ができ、緊急時であっても迅速な対応ができます。

災害対応でのSNS活用!

ほかにコミュニケーションツールの活用としては、会社全体でSNSのグループを作成して活用しています。

台風等の災害が起こった際に、現場の情報を共有できるように【災害掲示板】のSNSグループを作成しています。SNSを活用することにより、携帯ですぐに情報を共有でき、レスポンスも早く迅速に対応ができます。

導入事例

吉田建設株式会社

- 担当者 取締役部長 川上啓志様
- 発注機関 鳥取県 鳥取県土整備事務所

約53時間の削減! 紛失の防止! 全員で工事情報の共有ができ、現場の困りごとをいち早くフォロー



導入前の課題

今まで書類のやりとりを行う為に、発注事務所まで届けに行っていた。

解決方法

情報共有システムを利用することで工事帳票を簡単作成・提出・回覧までスムーズに

効果

削減できた時間を現場管理に費やすことが出来た

移動時間の削減により現場管理の充実

今まで紙で書類のやりとりを行っていた際は、現場事務所で作成した書類を発注事務所まで持つて行く時間が発生していました。しかし、情報共有システムを利用することで書類のやりとりがインターネット上で出来ることにより、この時間を大幅に削減することができました。

実際に今までの現場でどれくらいの時間をその移動の時間に割いていたかといふと、事務所まで往復する時間が30分、書類を説明する打合せ時間が10分で計40分が1度にかかります。これを協議・指示・報告・提出・承諾・立会書類等で80回行ったとすると総計3200分。約53時間の削減が出来ていることになります。

その分を現場管理(地元調整や現場出来形/写真/品質管理、工程見直し、原価管理、安全管理)時間を費やすことができました。



工事状況の共有によって現場のフォローワーク体制と若手育成につながる

書類のやりとりに関しては、まずは電子上で行う為今まで紙の書類だと発生していた紛失がなくなった上、書類が誰まで回覧されているのかを一目で確認できます。受注者は書類を自分の都合に合わせてクラウドサーバー上で発議が出来るし、発注者も打合せの合間をぬった時間に書類の決裁を行うことが出来るといったようにお互いの時間の有効活用に使えます。

また、各工事に現場担当者だけでなく社内の人間も登録できるため、社内で工事情報の共有ができ、現場の困りごとをいち早くフォローすることが出来ました。

そして、そういった電子データを社内技術者が今後共有していくれば、若手技術者の未経験の工事の要所を施工以前から見つけることができ、手戻り・現場中止等のロスがなくなります。その上、協議書作成スキルも全体的に向上していくことも期待できます。



導入事例

福浜大一・荻野特定建設工事共同企業体

- 担当者 平子 保男様
- 発注機関 福島県いわき建設事務所

仕事のスピードアップによる生産性向上



決裁状況の見える化により 工程計画や調整がスムーズに

発議した書類がどんな決裁状況であるのかシステム上で分かるため、発注者との次の打ち合わせの調整や、工程計画がしやすくなりました。他にも個人フォルダ機能を使って、打ち合わせに必要な大容量ファイル等も安全に送ることが出来るので、とても便利でした。

導入前の課題

遠隔地の現場であったため移動時間に半日かかっていた

解決方法

情報共有システムで書類提出・決裁をタイムリーに処理

効果

仕事のスピードアップによる生産性向上



仕事のスピードアップによる生産性向上

従来は、発注者事務所まで1.5時間かかる遠隔地だったため、打合せ時間等を含めると半日かかっていました。

情報共有システムを利用して、物理的移動時間の削減のみならず、書類が出来上がったらタイムリーに送ることができます。

以前は移動時間がかかるので、複数の書類が溜まってからまとめて行っていましたが、決裁が出てから次の作業にすぐに取りかかれるので、仕事の生産性が上がりしました。加えて書類の作成に関しても、システム上のやり取りで発注者にきちんと伝わるよう分かりやすい書類の作成を心掛けるようになりました、書類作成のレベルも上がったと感じています。

導入事例

株式会社杉本建設

- 担当者様 中居 正利様
- 発注機関 國土交通省 九州地方整備局、九州農政局
土地改良技術事務所、熊本県(予定)

検査の準備がより簡単・効率的にできた



導入前の課題

紙書類の運用の際は検査時の資料作成に時間がかかっていた

解決方法

決裁された書類を日々管理し、データも一括ダウンロードで検査準備

効 果

初検査用の資料作成などの準備時間が短縮、スムーズに検査を実施できた



検査の準備が効率化

今まででは電子検査の場合でも、別途、紙の書類も用意していました。今回の現場では、現場クラウドから出力したデータで検査を受けられたので、紙の書類については最小限の準備で済みました。検査用資料をまとめるのが楽になりました。

また、ダウンロードする際に目次も作成されるので、品質や出来形管理の資料についても現場クラウドへ予め登録しておくことで、検査前に協議書の目次を作成しなくて良く、検査の際も目次に張られているリンクをクリックするだけで目的の書類を開くことができます。書類を捜すことなくスムーズに検査を受けられました。

安心のサポート体制

施工中、サポートダイヤルを活用しました。フリーダイヤルやリモートサービスを使用して、分からることは何でもサポートセンターに聞いて解決できました。

対応が丁寧で分かりやすく、夕方も19時まで対応いただきて助かりました。

今後の情報共有システムの活用

九州地方整備局や九州農政局の工事で使用していましたが、今年度から熊本県工事でも情報共有システムの使用が可能になったので、活用ていきたいと思っています。

今後は、直接的に施工に従事しない者も、システムを経由して社内情報共有にも活用して行きたいです。

